



クローバー動物病院

だより 第4号



今回は犬の避妊(ひにん)と去勢(きょせい)についてです。

避妊と去勢

- ☆ メス犬は生後6ヶ月齢ごろから、年1~2回の発情が始まります。
- ☆ 通常、メス犬の発情期間は約2週間です。
- ☆ オスも同じ頃から、発情しているメス犬に敏感になります。
- ☆ 犬の場合は、発情したときのおいが、最低でも1キロ先まで届いていると言われています。

発情期のメス犬のくちょう

- 外陰部(おしこがでるころ)が赤く、ほれる。
- 外陰部から出血がみられ、気にしてよくなる。
- オス犬をひきつける。



☆ 発情出血がおさまる時期(出血開始から1週間~10日間)がもっとも妊娠しやすい時期ですので、野良犬などには十分注意が必要です。

☆ 避妊・去勢手術は、ともに6ヶ月齢過ぎた健康な子であれば、手術は可能です。

☆ メス犬では、2回目の発情がくる前に避妊手術を行うと、7歳以降に発生しやすい乳癌になる確率が、半分になるといわれています。

☆ 避妊は、子宮、卵巣をとりますので、妊娠しないということと、子宮蓄膿症という病気を防ぐことができます。この病気は子宮内に膿がたまり、毒素が体中をめぐると、手遅れになると命が危険になります。

☆ 去勢では、飼主さんの手におえないくらいワンパクな子を手術すると、その7割は、おとなしくなるといわれています。また、老齢性変化のひとつである前立腺肥大や精巣腫瘍の予防にもなります。ただし、避妊・去勢をおこなうと、太りやすくなる傾向があります。そのため、手術後、“太ったかな？”と感じられた時は、今まで食べていたご飯の量を少し減らす必要があります。

乳腺腫瘍

